

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 8

2013年12月3日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL： 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## 見ごたえあった西ネット（白梅祭）の展示

専修大学4年 丸山由加莉

「お互いの顔が見える地域づくり」をひとつのモットーに、小平西地区内で精力的に活動されている西地区ネットワークには、以前から興味を持っておりました。白梅祭でコミュニティ・カフェが行われることを知り、今回はじめて参加することができました。

はじめは緊張もありましたが、西地区ネットワークの方々が笑顔で親切に、気兼ねない雰囲気を作っておられたため、たじろぐことなく輪の中に参加することができました。

室内には、これまでの西地区ネットワークの活動や、四つのブロックごとの取り組みなどを写真や地図などを使ってわかりやすく展示してありました。そこからは、定期的に様々なところで活発に活動されていることがうかがえ、とても興味深く見ごたえがありました。

輪の中では、実際に活動する中で気づかれた課題や、今後どのように活動を進めていくべきかなど、想像以上に濃い内容のお話を伺うことができました。

地域のつながりが希薄化していると叫ばれる今日ですが、ここでは皆様真剣に、様々な制約がある中でも地域をより良くしていくために「できることからやっつけていこう」という意識で、力強い話し合いが行われておりました。そこでは本当にこのまちが好きなのだ、という楽しい雰囲気がにじみ出ていました。

今回、実際にはじめて西地区ネットワークの輪に参加させて頂くだけでも、その印象や考え方などが変わり貴重な経験をすることができました。また、積極的・継続的に動する中でしか知ることのできない課題も多くあるの



（写真は当日のカフェ内部）

だと感じ、行動に移していくことの大切さも痛感しました。

活動を始められて約2年、「まだまだこれから。今後どのように芽が生えて、地域に浸透していくかが問題」というお言葉を伺い、改めて今の自分が地域の中でできることについて考える貴重な機会になりました。ありがとうございました。

### 「西地区地域ネットワーク」って何？

昨年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。

市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

## 学内にFM放送局できないかな・・・

家族・地域支援学科 2年 岡田 弘樹

10月19日(土)の西地区ネットワーク主催のコミュニティ・カフェに、午前のみでしたが、参加させて頂きました。短い時間の中ではありましたが、沖縄戦のお話を下さった方や、親子で来て下さった方など、色々な方と交流することが出来ました。

その中でも、NPO 法人の方で、「小平 FM 放送局」の開設に取り組んでいる方と交流させて頂けたことが、特に印象に残っています。既に、山梨と広島の一部の大学では、この FM 放送局の取り組みが行われていることを伺いました。

この取り組みによって、防災や地域の活性化だけではなく、「地域からの孤立を防ぐ」ことが出来るのも良いと思います。また、大学内に放送局が出来れば、そこで、学生と地域の方との交流のきっかけになるのではないかと思います。FM 放送局は「世代間交流」の場としても、適していると感じました。

このコミュニティカフェに参加させて頂



(カフェでの懇談)

いたことで、「西地区ネットワーク」の取り組みについて知ることが出来ました。西地区ネットワークの取り組みについて知らない人に、コミュニティカフェを通して活動を知ってもらうことは良いと思います。

今回のコミュニティカフェを通して、改めて「コミュニティカフェとは何か？」と考える良い機会となりました。この経験を、講義の一環でも行っている、残り三回のコミュニティカフェに活かされるように頑張りたいと思います。

## カレーパーティーat さつき

小平・環境の会／法政大学大学院政策創造研究科

森田 賢明

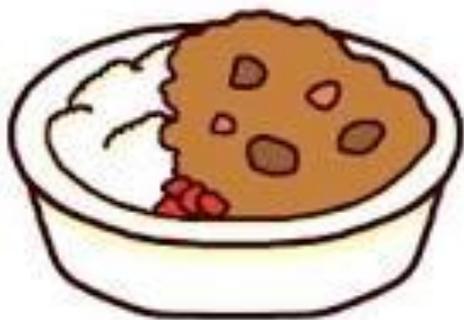
8月8日に「ほっとスペースさつき」にてカレーパーティーを行いました。まず、カレーパーティーに協力していただいた「さつき」のスタッフのみなさま、当日、足を運んでいただいた利用者みなさまにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

読者の皆さんは、なぜ、「さつき」でカレーパーティーが開催されたのだろう、と不思議に思うのではないのでしょうか。少しですが、至った経緯を説明します。私は、小平・環境の会に所属しています。小平・環境の会では、生ごみを少なくするための実証実験として、生ごみを堆肥にして、野菜

栽培をしています。

今年の夏は、晴天が続き、雨に恵まれませんでした。そのなかで、畑で野菜たちが頑張って成長したおかげで、収穫に恵まれました。収穫に恵まれたので、おすそわけをしよう、ということになりました。夏なので、野菜が食べやすいカレーがいいのでは、ということになりました。

一つ問題がありました。おすそわけを行う場所です。会の活動の場である畑の近くに「ほっとスペースさつき」がある、と思い立ち、「さつき」のスタッフの方に連絡を



いたしまして、夏野菜カレーパーティーの開催とあいなりました。

パーティー当日、足を運んでいただけなのか、と不安でいました。ですが、多くの方がいらっしゃったため、ほっとしました。私は台所で、カレーをよそうのに忙しくしていました。台所に声が聞こえてきて、さつきが会話で満たされていくのを感じていました。

作業がひと段落して、カレーを食べながら、多くの方と一緒に昼食を食べる機会は久しぶりだと思いました。様々な世代の方とカレー談義に花を咲かせているうちに、時間は楽しく過ぎていきました。

今回、開催したようなカレーパーティーを通して、「さつき」がテーマとしている世代間交流の一助に、私の所属している会の野菜がお役立ちできたのであれば、幸いです。改めて、足を運んでいただいた利用者みなさま、「さつき」のスタッフみなさま、ありがとうございました。

## 20～80代まで世代間交流実現！

ほっとスペースさつき第一回学習会

世話人：細江 卓朗

東日本大震災後に白梅学園大学の呼びかけで、小平西地区地域ネットワークが設立され、我々が所属する第4ブロックでは、地域の方の居場所「コミュニティサロン・ほっとスペースさつき」を、今年2月鷹の台駅から徒歩5分のアパートの一室にオープンしました。

大学の教職員、学生、地域の高齢者クラブの会員、民生児童委員などのボランティアが運営に関わり、毎週火曜・木曜の開所

日には、10名以上の方がみえるようになりました。

この地域に引っ越してきたけれども、子育ても終わり地域との関わりが全くなくノイローゼ気味になっていた方、独居老人で人と話す機会がほとんどなかった方、心に重荷を感じている方、身体に障がいのある方、子育てママ、児童など実に様々な方がさつきを訪ねてみえます。

様々な方がみえて嬉しい反面、対応に不

安を感じるボランティアの方もおられました。幸い公益財団法人草の根事業育成財団の助成を頂きましたので、基礎的なことから勉強する学習会を計画しました。

第一回目は、9月13日「世代間交流と地域の居場所」と題して白梅学園大学草野篤子教授が、子どもが育ち高齢者が幸せな日々を過ごすには、それぞれの世代が持っている能力や技術を出し合い世代間交流をする事が重要と教えてくださいました。

白梅学園大学牧野晶哲講師は、現在の子供が置かれている環境やいじめなどの対応

として、杉並区が取り組んでいる「地域と作る子どもの居場所づくり」の具体例についてお話して下さり、地域に関わることの重要性を再認識しました。

その後、講師を囲んでの意見交換会。最後は立食の交流会と盛り沢山の学習会でした。

市民の方にも広く参加を呼びかけ、20歳の学生から80歳代のさつき利用者まで、55名が一堂に会して学び、語り、まさに世代間交流が実現した学習会でした。

(写真は学習会場)



## つながりや絆の大切さを知って

小川町1丁目 安藤 綾子

歴史のある古い街小平。50年前も豊かで住みやすく平和な街並みがありました。「光陰矢の如し」と申しますが、歳月の流れの速さを実感しております。昨年は市制50年という結節を迎えあらたな感慨に浸りました。

私は、半世紀に亘りこの地域に見守られ

喜びや悲しみと向き合い、苦楽を共に歩んできた小平の街が大好きです。そしてこの街を第2の故郷と信じこれまでもこれからもずっと住み続けていきたいと思っております。

高齢者クラブを通じ「西地区ネットワーク」「コミュニティ・カフェさつき」会長様



(玉川上水沿いの歩道)

よりお聞きし、お誘いを受けましたが、最初は何のことか分かりませんでした。百聞は一見にしかず、まず行って、見て、聞いて感じてくださいとのことでしたので、お言葉を信じ参加させていただきました。

白梅大学の学生さんに小平の歴史について尋ねられました。50年前の出来事は少しは分かっているつもりでした。それ以前に小平独自の文化や伝統もあります。学生さんの得意の分野ですので、別の方法で調べていただきたいと思います。

子どもの頃の遊びについても質問されました。おはじき、塗り絵等々に遊ぶことに

関しては誰にも引けを取らない自負(?)がありました、さつき荘のお客様でお手玉を作った方からお借りして久しぶりに童心に帰り思いっきり遊ばせていただきました。

今回、人と人とのつながりや絆で結ばれることの大切さを感じました。また地道に



(小平名物：糧(かて)うどん)

地域の中の問題を真剣に取り組み解決していこうとされている姿に頭が下がる思いでいっぱいです。

縁あって皆様と親交を深めることができ、その中から信頼の輪が広がり少しでも自分自身を高めて行けることにささやかな希望が湧いてまいりました。今後のご活躍と発展を心から期待しております。

---

## 鷹の台団地防災訓練レポート

鷹の台団地小平自治会 岩井 洋

さる10月27日(日)の午後、鷹の台団地にある三角公園で「平成25年度防災訓練」が行われました。年1回この時期に、この団地にある「鷹の台団地小平自治会」、「鷹の台団地国分寺自治会」の二つの自治会が、毎年交代で主催している防災イベントです。10年以上昔から続いているそうですが、いつから始まったかは定かではありません。

鷹の台団地とは、昭和38年に東京都宅地開発公社が開発した、戸建てばかり約200世帯の住宅地です。「鷹の台」駅を出て左に曲がり、玉川上水を渡ってしばらく南下、小平市上水新町3丁目から国分寺市北町1丁目にかけての、各々100世帯ずつからなる住宅地です。

今年は発足してちょうど50年になりま

す。これを記念した事業として、現在「鷹の台団地50年史（仮称）」を編纂中です。この事業は小平市の「平成25年度市民活動支援公募事業」にも採択されました。小平市民活動支援センターの広報紙「あすびあ通信34号」に、この事業の記事が紹介されています。ご興味ある方はご覧ください。

さて今年の主催担当は国分寺側。両自治会役員の仕切りのもと、国分寺消防署戸倉出張所と小金井警察署との協力で、50名余りの参加者を得て訓練は無事終了しました。

訓練内容は、消防署員の指導による初期消火、心肺蘇生法、AED操作などの実演展示、また刑事さんの防犯講話など。参加賞として、国分寺市役所から「防災食ビスケット」、小金井警察から「LED懐中電灯」、そして自治会から「5年保存水500ml1ペ



(写真は救命訓練)

ットボトル」などが、参加者全員に配られました。残念ながら、小平一小的「ファミリー運動会」と日程がぶつかったためか、今年は子どもたちの参加が少なかったのですが…。

訓練終了後は、そのまま有志によるポットラックパーティー。おいしい豚汁がふるまわれ、それまでの真剣な風景とはうって変わって、楽しい交流の場となりました。



(防災訓練の全体の様子)

# みんなで楽しもう 世界の人たちと

— 2013 こだいら国際交流フェスティバル —

小平市国際交流協会 事務局長 菊池哲矢

9月29日(日) フェスティバルを小平市福祉会館で開催しました。今年も昨年に引き続き、「みんなで楽しもう 世界の人たちと」をスローガンにして、さまざまなイベントを行いました。

企画準備から当日まで携わっていただいたボランティアさんは126名。白梅学園大学からも先生と学生の4名の方がお手伝いをしていただきました。

協会の日常の活動は、日本語会話教室や国際こどもクラブなど10のグループに分かれて、ボランティアが中心に展開されています。このフェスティバルでは、これらのグループが日頃の活動内容を紹介するとともに、実行委員会で企画したホールイベントを実施しました。



(華やかに“国際交流”)

当日のプログラムは、福祉会館全館を使って以下のように盛り沢山！

- \*日本語で話そう(日本語スピーチ)、
- \*茶道・生け花紹介、
- \*子どもクラブ(フェイスペインティング、カードゲーム)、
- \*折り紙体験、
- \*外国語武者修行(英語、中国語)、

\*台湾茶紹介、

\*リサイクルバザーなど

白梅学園大学の学生さんには、外国語武者修行(外国語体験教室)の受付や会場コンシェルジュでお手伝いいただきました。

また5階ホールでは、米国空軍太平洋音楽隊 Pacific Clave によるワールド・ミュージック、ペルー人によるフォルクローレの演奏や鈴木ばやしの披露、民族衣装ファッションショーなど多彩な催しを行いました。



(民族衣装ファッションショー)

今年の特徴は、鈴木ばやしと Pacific Clave、また大学生とプロのフォルクローレのコラボレーションでした。

ホールのロビーでは留学生支援のためのリサイクルバザーも開き、売上げを小平国際学生宿舍寮生・地域交流実行委員会に寄付。また、福祉会館前の通路では、イランやインドネシアなど6カ国の屋台と大学生によるフェアトレード販売などが出店を連ねました。

当日は市民ひろばで開催された「どけん祭り」と同時開催となったこともあり、たくさんの人出となり国際色豊かな交流があちこちでみられました。

## コミュニティ・ビジネスで街を元気に

NPO 法人 Mystyle@こだいら代表理事 竹内千寿恵

私たちは、小平市を拠点に、地域密着の社会貢献事業であるコミュニティ・ビジネスの活性化を目指し、2006年11月に設立されたNPO法人です。

Mystyle@こだいらという名前には、私たちの思いが込められています。「マイスタイル＝自分らしく」の後に続く言葉は「暮らす」、そして「働く」です。舞台になるのは、ほかでもない、愛する家族が暮らすまち「小平」です。

わたしたちの母体は、小学校のPTA役員仲間でした。今から12年前、1年間の本部役員を経験した私たちは、任期が終わったあとも「このメンバーで一緒になにかができればいいね。」と夢を持ちました。誰もが望めば、家族の暮らすまちで、家庭を大切にしながら、やりがいもてる仕事。年齢や性別にとらわれず、チャレンジできる仕事。それが私たちの望みでしたが、なかなか該当する仕事はありませんでした。

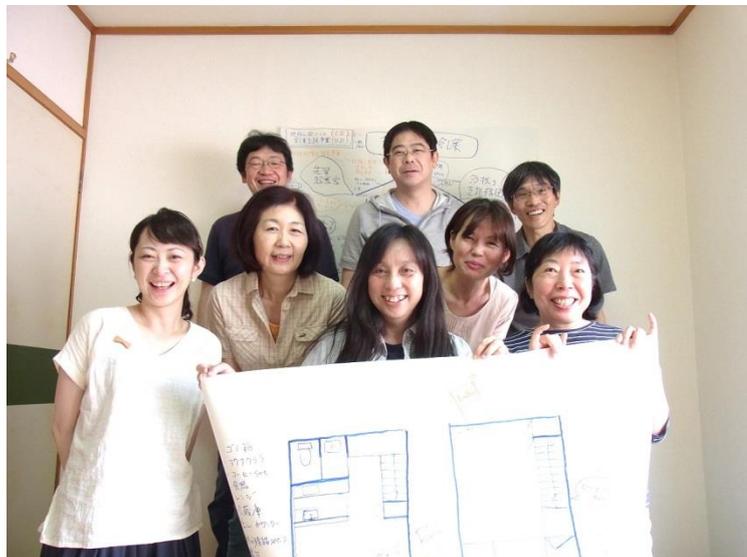
「なければつくればいいじゃない」。その発想で生まれたのが当NPO法人です。

コミュニティビジネスの活性化には地域ネットワークが必要ということはよくいわれます。市民、行政、NPO、企業、金融機関、経済団体、大学など、地域の多彩なセクターがつながることで、互いの得意なところで連携しあいながら、まちの元気づくりに取り組むという考え方です。ただし「さあ！ネットワークしましょう」という掛け声をかけたとしても、ことはそう簡単に進むものではありません。

当会も、設立以来、試行錯誤しながら地域ネットワークをいかに築くかに注力してきました。そうして動く中、キーワードとして浮かんできた考え方が、信頼を紐帯としたつながり＝「ソーシャルキャピタル＝人と組織の間にある見えない資産」でした。

ソーシャルキャピタルは、なじみのある言い回しだと「情けは人のためならず」という考えと近いものだと感じます。直接の見返りを求めるのではなく、誰かのために行動すると回りまわって他の誰かが、自分

(写真：前列中央が筆者)



を助けてくれるという、直接的な報酬を求めずに行う活動ということです。このソーシャルキャピタルの醸成のために、ここ数年、毎年、対話のイベントを開催しました。

今年は、11月24日（日）には、小平市健康センターで「こだいら未来会議」を開催します。未来に続くアクションのきっかけの場を目指しています。

## コミュニティ・カフェを開催して

家族・地域支援学科 2年 伊藤 綾（いとう・りょう）

11月6日（水）学内でコミュニティ・カフェを開催し、様々な課題が生まれました。今回はボランティアのゲストを呼ばずに、学生中心でコミュニティ・カフェの原点に戻って実行しました。ゲストを呼ばないということは私達学生の力量が顕著にあらわれます。一つ一つの作業を丁寧に行おうとしましたが、時間的に切羽詰まってしまい配慮に欠けた点が出てきました。



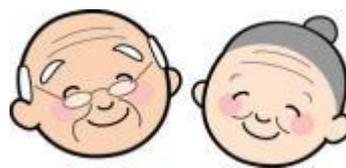
しかし、それを除けば今回のコミュニティ・カフェは私は成功したと思っています。なぜなら、学生の力だけで最初から最後まで行うことができたからです。これまでのカフェは、ボランティアの方の協力でやっと成り立っていたので、新たな一歩が踏み出せたかと思います。

今回行った企画は、ハロウィーン・クイズ、草野先生からのサプライズ・クイズ(なぞなぞ)、歌です。ハロウィーンの時期が近かったので「ハロウィーンをテーマとした

クイズをしよう」となったのです。でもこの行事について高齢者の方はあまりご存ない様子で、難しい問題ばかりだったみたいです。世代間交流を行うにあたってこのクイズ形式の企画は、子どもからお年寄りまで共通に理解のある内容で行わなければいけない、と反省しました。

企画の中で一番驚いた発見は、草野先生のサプライズ・クイズです。「もしかしたら学生しか分からないかも」と思っていました。

しかしなんと、どの問題も10秒以内に高齢者の方が正解していました。学生よりも高齢者の方が頭が柔らかいようだ、というのは新たな発見でした。



今回のイベントを終えて、外部のカフェを体験しに行くことが必要だと思いました。今まで学生だけで開催したことがなくスムーズに進行していたので、そのことに気づくことが出来ませんでした。今後様々な体験をしてこのコミュニティ・カフェの質を高めていきたい、と思いました。

## 楽しく学べる「中学生無料勉強会」(通称:「分ったかい(会)?」)

ちょっとのぞいてみませんか?

2013年12月

小平西地区地域ネットワーク

白梅学園大学 草野 篤子

開講日時: 毎週 木曜日 午後6~8時

(12月12日(木)開始です!)

会場: 市立小川公民館

〒187-0032 小平市小川町1-1012

電話&Fax: 042-343-3620

西武国分寺線「鷹の台駅」から徒歩6分

対象: 市立中学の生徒

定員: 10人(定員に達し次第締め切ります)

講師: 現・元中高大学の教員・大学生他

なお、学習に障がいや困難のある生徒のために相談できる専門の先生もいます。

費用: 無料

科目: 国語・英語・数学を基本

主催: 小平西地区地域ネットワーク

後援: 小平・教育と子どもを守る会

申込み先: 石川貞子(いしかわ・さだこ) 電話・FAX: 042-344-2309



## ネットワーク担当者一覧

(各地区のイベント、相談事は世話人にご連絡ください)

ブ ロ ック	世話人	教職員
1	西 克彦・布 昭子	山路・瀧口(優)・井上・福丸
2	芳井正彦・足立隆子	関谷・土川
3	石川貞子・久保田進 穂積健児・大内智恵子	草野・西方・牧野・瀧口(眞)
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	森山・杉本
全 体 的		奈良・長谷川・成田・吉村

**お願い**: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

**投稿募集**: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。奈良: メールアドレス

[ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp](mailto:ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp)

**編集後記**: 月日が経つのも早く、今年

ももう師走。ようやく第8号を発行できました。『小平西のきずな』を皆様の協力を得てさらに充実させていきたいと考えます。来年もよろしく。(N)

